

第 80 回日本宗教学会学術大会に参加

堀内みどり

標記学術大会が、9月6日から8日にかけて開催された。担当校は関西大学。当初、対面とオンラインでの開催が予定されたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための緊急事態宣言が各地に出されたので、オンラインのみの開催となった。公開シンポジウムは「笑いと宗教」をテーマとし、柏木哲夫淀川キリスト教病院名誉ホスピス長と、釈徹宗相愛大学教授が基調講演を行った。動画は、6日より13日まで配信され、約650回の視聴があった。学会には480名ほどが参加した。

また、本年度の学会賞に、当研究所の澤井真研究員の『イスラームのアダム一人間をめぐるイスラーム神秘主義の源流』（慶應義塾大学出版会、2020年12月刊）が選出され、会員総会で披露された。選考委員会では、本書を「宗教学とイスラーム学を架橋し、イスラームにおける神秘主義の人間学を明らかにしようとした意欲作である。」と評価、本書の学術的意義として、以下の3点を挙げた。①「宗教」「神秘主義」「イスラーム神秘主義」といった概念を、研究史を丹念にたどることによって、批判的に検討している。②人間学の分野において、宗教学者に広く刺激を与える貢献をなしている。③難解なアラビア語一次資料を読み込んだ、精緻な文献学的読解がなされている。

なお、今回の学術大会での本学関係者の発表は以下の通り（プログラム順）。

澤井真

「井筒俊彦と東洋—イブン・アラビー思想との出会い—  
（パネル「井筒俊彦の『東洋哲学』前夜」の代表者・司会も務める）」

岡田正彦

「仏暦の忌日と『日本仏教』」（パネル「暦の思想史」）

堀内みどり

「信者が伝えた教祖—『稿本天理教教祖伝逸話篇』から見る教祖像—」

澤井義次

「井筒『東洋哲学』における意味論的視座とその特徴」

WCRP 平和研究所での月例研究会活動

金子 昭

私は2016年10月、学長室の委嘱でWCRP（世界宗教者平和会議）平和研究所の所員に就任して以来、毎月開かれる所員会議及び研究会に出席し、今日に至っている。この研究所は公益財団法人WCRP日本委員会に所属する研究機関で、諸宗教を背景に持つ学識経験者が集い、平和に資する調査や研究を行っている。現在、所員は9名であるが、持ち回りで研究発表を行い、また紀要『平和のための宗教—対話と協力—』を刊行している。コロナ禍のため、昨年来、所員会議及び研究会はすべてオンライン方式で行われている。（昨年12月18日付で、同研究所から「新型コロナウイルス禍を生きぬく慈しみの実践に向

けて」という声明文をプレスリリースした。）

9月21日、今年度の第5回所員会議及び研究会がオンラインにより開かれた。研究会の部では、所員の竹村牧男・東洋大学名誉教授が「SDGsと食の宗教性について」と題して1時間の発表。その後、WCRP役員関係の傍聴者も含め、参加者20名で活発な質疑応答が行われた。

日本倫理学会第72回大会に出席

金子 昭

10月1日から3日まで、標記大会が全面オンライン方式（事務局：慶應義塾大学）で開催された。日本倫理学会は倫理学に関する全国学会で、会員は約900名。例年、多岐にわたる倫理学の諸テーマが討議されている。

今回、初日のワークショップは、動物倫理、震災と倫理、コロナ禍と人権教育、「応用」の倫理、初等・中等教育と倫理学の5つのテーマに分かれて開かれ、私は初等・中等教育と倫理学の部会に参加した。2日目は、午前が3会場での自由課題発表で、私は応用倫理関係の部会に参加。午後は主題別討議で、音楽と倫理、倫理的思考と道徳教育、世阿弥（能）の思想の3つのテーマで開かれ、私は倫理的思考と道徳教育の部会に参加した。3日目は、午前が前日同様3会場での自由課題発表で、私は日本思想の部会に参加し、午後の4時間にわたる全体会（共通課題「おそれと差別」）も最後まで参加した。この全体会では、差別に関する現象学的解明の試み、おそれ・穢れと差別の歴史的・思想的・社会的分析、差別を正す「おそれ」の問題（ヌスバウムの正義論と動物）の3本の発表の後、全体討議が行われた。

オックスフォード大学主催の国際会議で、オンライン講演

澤井 義次

10月4日～6日の3日間、オンラインで開催されたオックスフォード大学主催の国際会議「哲学的人間学としての宗教現象学」（The Phenomenology of Religion as Philosophical Anthropology）に招かれ、講演「ルードルフ・オットーの宗教論の意味論的解釈」（A Semantic Interpretation of Rudolf Otto's Religious Theory）をおこなった。それは宗教学の古典的名著『聖なるもの』で知られるオットーの宗教論を、意味論的な視点から宗教経験に根ざす「一つの宗教人間学」理論として捉え直そうとしたものである。

この国際会議は、オックスフォード大学の宗教学者でインド哲学者でもあるギャヴィン・フラッド教授を中心に企画運営されたものである。当初、オックスフォード大学を会場として開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大のために、やむなくオンライン開催となった。

ちなみに、わが国からは藤原聖子教授（東京大学）も招かれ、「グローバルな宗教現象学と哲学的人間学へのその含意」（Global Phenomenologies of Religion and their implication for Philosophical Anthropology）と題して講演をおこなった。